

メッセージ: 私たちの壁が崩れ落ちる

OIC の皆様おはようございます。
ようこそ天の父なる神の家へ来られました。

私の前回のメッセージ「神様のゲームチェンジャー（物事の状況や流れを一変させること）-イエス様の死からの復活」、「喜び、信仰を献げる仕事に取りかかりましょう」で私のメッセージを締めくくりました。

クリスチャンが信仰を献げれば献げるほど、神様からの聖霊なる神様によって信仰を献げ続けることで神様はもっと受けられます。イエス様は天に帰られる前に、神様の軍隊の神様の兵士たちを働かせるために時間を無駄にされませんでした。彼らは主イエス様の復活を喜んでいました。イエス様は彼らを人々の魂のために働くように導かれました。＜マルコの福音書 16 章 14 節＞を読みます。

＜マルコの福音書 16 章 14 節＞

その後、十一人の弟子たちが食事をしているところにイエスが現れ、彼らの不信仰をとがめられました。「どうして、わたしが復活したと言う者たちの証言を信じなかったのですか。」

ユダヤ文化圏における女性の地位の低さが、女性たちのメッセージを信じなかった一因でありましょう。これらの女性たちは 2 人の天使を見て、神様からの言葉を聞きました。マグダラのマリヤでさえ主なるイエス様を見ました。しかし、使徒の男性たちはこれらの仲間の信者を信じようとしませんでした。イエス様は使徒の男性たちにそんな言い訳はさせませんでした。＜マルコの福音書 16 章 14 節-16 節＞を読むように、

＜マルコの福音書 16 章 14 節-16 節＞

14その後、十一人の弟子たちが食事をしているところにイエスが現れ、彼らの不信仰をとがめられました。「どうして、わたしが復活したと言う者たちの証言を信じなかったのですか。」

15それから、こう宣言されました。「全世界に出て行きなさい。すべての人々にこの福音を宣べ伝えるのです。」

16信じてバプテスマ（洗礼）を受ける者は救われます。しかし、信じない者は罪に定められます。

「主イエス様は復活された」という生きた信仰よりも大きな喜びは、失われた罪人を導いて、あなたとともに「主イエス様は復活された」ということを信じることです！主イエス様は本当に復活されました！

今朝は、神様の民、イスラエルの民を約束の地に導いたヨシュアの歴史に戻ります。この約束の地はカナン地でした。「エリコの壁が崩れ落ちた」ことを裏付ける考古学の証拠を見ましょう。カナンは多くの戦争好きな氏族や国によって占領されていました。それぞれが独自の王を持ち、近隣諸国を支配し、戦争を指揮しました。エリコの王は多くの恐れと尊敬を当然のこととして受けました。エリコの王の都市は戦争において無敵だと考えられていました。今、神様は、神様に選ばれた民のために神様の御心に逆らう者、あるいはいかなる力に対しても、神様の強大な力を示されます。神様はエリコとエリコの城壁をイスラエル軍の前に崩れ落ちさせます。

エリコの壁の陥落-神様のご計画が成就した

エリコに対する勝利のための神様の計画は、＜ヨシュア記 6 章 3 節-5 節＞に示されています。

<ヨシュア記 6 章 3 節-5 節>

3・4 六日の間、全軍を率いて、日に一度、町の周囲を回りなさい。そのあと、ラッパを手にした七人の祭司と契約の箱が続き、七日目には七度回り、祭司がラッパを吹き鳴らしなさい。
5 祭司がラッパをひときわ高く、長く吹き鳴らしたら、全員、大声でときの声を上げなさい。町の城壁はくずれ落ちるだろう。その時、四方八方から町へ攻め込むのだ。

第一日目は<ヨシュア記 6 章 8 節-11 節>に記されています。

<ヨシュア記 6 章 8 節-11 節>

(6) (7) 8-9 ヨシュアは祭司たちを召集し、指示を与えました。すなわち、武装した者たちが行進の先頭に立ち、そのあとに七人の祭司がラッパを吹き鳴らしながら続くこと、そのうしろを主の契約の箱をかつぐ祭司が進み、さらに、護衛兵がしんがりを務めることなどです。
10 ヨシュアは命じました。「ラッパの音以外、音を出してはいけない。一言も発してはならない。私が『ときの声を上げよ』と言ったら、いっせいに大声で叫びなさい。」
11 その日、主の箱は一度だけ町の周囲を回りました。人々は宿営に帰り、夜を過ごしました。

同じ行進の 6 日後 - 7 日目は<ヨシュア記 6 章 15 節-19 節>に記されています。

<ヨシュア記 6 章 15 節-21 節>

15 七日目、夜の白むころ、またも人々は立ち上がり、この日は一度ではなく七度回りました。
16 七度目に、祭司たちが高らかに長くラッパを吹き鳴らすと、ヨシュアは大声で言いました。「ときの声を上げよ！ 主はこの町をわれわれに下さったのだ！
17 住民はみな滅ぼせ。だが娼婦ラハブと、その家の中の者たちは助けなさい。ラハブはわれわれの偵察者をかくまってくれたからだ。
18 戦利品には手を出さず、すべて滅ぼし尽くしなさい。もしこれに背けば、イスラエル全体を災いが襲うだろう。
19 ただし、金、銀、および青銅や鉄の器具はみな、主にささげ、主の宝物倉に納めなさい。」
20 祭司の吹き鳴らすラッパの音を聞くと、人々はあらん限りの大声を出して、いっせいにときの声を上げました。と、どうでしょう。突然、城壁がくずれ落ちたのです。それとばかり、四方八方から攻め込み、彼らはたちまちエリコの町を占領しました。
21 町中の者は全部、男も女も、老いも若きも死にました。また、牛や羊、ろばも殺されました。

<ヨシュア記 6 章 15 節>を読みます。

<ヨシュア記 6 章 15 節>

15 七日目、夜の白むころ、またも人々は立ち上がり、この日は一度ではなく七度回りました。

万物の創造主である神様は、天地万物を創造した後、第七の日に休まれたことを、神様はご自分の民イスラエルの民に思い出されたのです。<創世記 2 章 2 節>でこの出来事を読みます。

<創世記 2 章 2 節>

すべてを創造し終わると、神は七日目には休まれ、

神様は 7 日目に創造の御業を終え、すべての御業を休まれました。今、あなたは「しかし、ブルース牧師、イスラエルの民は戦いエリコの町を占領するために手に剣を持っています。」というかもしれません。神様が指し示しておられるのは、この不可能な勝利を.....可能にするために、神様は本当に働いておられるということです。神様の超自然的な力は、歌舞伎座や映画で観客が観劇するように、兵士たちが休んでいる間にエリコの壁を崩壊させました。神様は、無敵の壁を破壊して勝利を創造するという超自然的な御業をなされました。

神様は罪を憎み、罪を全て滅ぼさなければならない

<ヨシュア記 6 章 17 節>を読みます。

<ヨシュア記 6 章 17 節>

17 住民はみな滅ぼせ。だが娼婦ラハブと、その家の中の者たちは助けなさい。ラハブはわれわれの偵察者をかくまってくれたからだ。

約束の地を目指すイスラエルの民による征服の戦いは数多くありました。神様は指導者モーセに、そして今はヨシュアに、主なる神様への献げものとして、約束の地の中にあるすべてのものは完全に滅ぼさなければならないと命じられました。

神様は罪の「全体像」を見ておられました。神様は時間を超えられたお方です。神様は、罪が現在だけでなく、何年も先の未来にも影響を及ぼすことを見抜いていらっしゃいます。地球上の全ての罪深き人々は、多くの熟練した作家と物語を語る伝統でノアから伝えました。自分達に知らされた真理を語り継ぐことを拒んだ世代は、神様の神聖さと義に無知な民を生み出しました。神様に無知は言い訳になりません。<ローマ人への手紙 1 章 20 節>で神様は言っておられます。

<ローマ人への手紙 1 章 20 節>

世界が創造されてからこのかた、人々は、天地や、神がお造りになったすべてのものを見て、神の存在とその偉大な永遠の力をはっきり知っていました。ですから、彼らには弁解の余地がありません。

世界が創造されて以来、人々は地球と空を見てきました。神様が造られたすべてのものを通して、人々は神様の目に見えない特質をはっきりと見ることができます。－ 神様の永遠の力と神聖。だから人々は神様を知らないという言い訳はできません。もし私たちが神様をご覧になったもの、つまり、罪深い人々、子供達そして動物達と一緒にいる大人達がしている吐き気と非常に不快な背徳を見たなら、私たちは神様の命令に従って剣を使うことをためらわないでしょう。十字架で人々の罪の贖いのためのイエス様の苦しみによってのみ、吐き気と非常に不快な背徳のような罪は洗い聖められます。聖金曜日（イエス様が十字架にかかれた記念日）に、私はユニークなワーシップソング「This Blood Is For You（イエス様が十字架で流された血潮はあなたのためです）」を思い出しました。この曲は 1980 年から 1990 年までアメリカで有名なクリスチャン・シンガーが作ったものでした。彼の芸名は Carman でした。本名は Carmelo Domenic Licciardello でした。イエス様の十字架刑についての彼の最も有名なワーシップソングは、『This Blood Is For You（イエス様が十字架で流された血潮はあなたのためです）』です。その曲の歌詞の繰り返しには「そして、このイエス様が十字架で流された血潮は魂を救う」が含まれています。一般的な歌詞の言葉はほとんど架空のものです。この曲の歌詞はローマ兵がイエス様を拷問した実際の出来事を思い起こさせます。「（イエス様は）両手首をきつく縛られ、両腕を激しくつかまれ、屈強な兵士が拳に握りしめた鞭のような地獄のような表情でイエス様を鞭打った。骨の欠片を混ぜて、イエス様の肩から足まで激しく叩いた。それはイエス様のオリーブの肌を切り裂いた。1つのシートだけどもまるでカミソリのように」さて Carman は「ポエティック・ライセンス（詩や創作文芸において、通常の文法や規則から逸脱して、詩的効果をより高めるために許される自由のこと）」を使っています。聖書には、イエス様が鞭打っている兵士に向かって「この私が流す血潮はあなたのためだ！」などと語ったという記述はありません。私はポエティック・ライセンス（詩や創作文芸において、通常の文法や規則から逸脱して、詩的効果をより高めるために許される自由のこと）を使用する事は期待以上のことだと思います。Carman は私たちの主なるイエス様とイエス様を殺害した人々、私やあなたでさえも、イエス様が赦してくださったことを賛美する感動的な場面を表現しました！そして私たちは、十字架につけられたイエス・キリストが宣べ伝えられるたびに、聖霊なる神様が「このイエス様が流された血潮はあなたがたのためです」とおっしゃっておられることを知っています。そして、世の終わりまで、聖霊なる神様が「このイエス様が流された血潮はあなたがたのためです」とおっしゃられるでしょう。Carman の歌だけでなく、聖書も父なる神様の赦しのためのイエス様の御言葉を私たちに語っ

ています。父なる神様の赦しのためのイエス様の御言葉は、地球上で最も非常に不快な罪人であっても、すべての人のためです。＜ルカの福音書 23 章 32 節-34 節＞で私たちは読みます。

＜ルカの福音書 23 章 32 節-34 節＞

32 ・ 33 イエスだけでなく、ほかに二人の犯罪人が、「どくろ」と呼ばれる場所で処刑されるために、引いて行かれました。刑場に着くと、三人は十字架につけられました。イエスが真ん中に、二人はその両側に。

34 その時、イエスはこう言われました。「父よ。彼らをお赦してください。彼らは、自分たちが何をしているのかわかっていないのです。」兵士たちがさいころを投げて、イエスの着物を分け合うのを、

Carman のポエティック・ライセンス（詩や創作文芸において、通常の文法や規則から逸脱して、詩的効果をより高めるために許される自由のこと）は、語られることができた言葉の中にあり、聖霊なる神様は今も語っておられます。Carman の描写した兵士は、メッセージを聞き、恐れたので救いの祝福がありました。イエス様の衣を賭けた本物の兵士たちは、救いの祝福を逃しました！この歌には「それからイエス様が驚いたことにご自身の顔をむけられ、仰せられた言葉は少なかったが、イエス様が『この血はあなたがたのためである』と言われたとき、兵士たちの顔は青ざめた。」と書かれています。

Carman は、未熟で表面的なキリスト教を憂慮する賜物のあるクリスチャンだったと思います。罪はそれほど深刻ではなく、悪魔は私たちの想像の中にしかおらず、十字架は首からぶら下げたきれいな飾りにすぎないという世界を見るクリスチャンがいます！さて多くのクリスチャンが銀や金の十字架を身につけ、救い主への愛を示していることをどうぞご理解ください。私の子供達も銀や金の十字架を身につけ、救い主への愛を示しています。私は Carman もそうだったと思います。私は、罪人の世界に対して、私たちの装飾によって何を伝え、何を説いているかということを示しています。

Carman の神学を正しく読めば、私は Carman の音楽における神様の働きの目標に同意します。＜ルカの福音書 23 章 33 節＞は言っています。

＜ルカの福音書 23 章 33 節＞

(32) ・ 33 イエスだけでなく、ほかに二人の犯罪人が、「どくろ」と呼ばれる場所で処刑されるために、引いて行かれました。刑場に着くと、三人は十字架につけられました。イエスが真ん中に、二人はその両側に。

私たちの歌のほとんどは、イエス様が十字架につけられた場所を表す「カルバリー」という言葉を使っています。しかし、この「カルバリー」の言葉はラテン語で「どくろ」を意味します。その方が響きがいいです。さて、私たちは罪人を怖がらせて福音から遠ざけたくありません。しかし、映画『キリストの受難』が日本で大人気だったと聞いて、私は驚きました。この映画はとても血に染まった映画で、ローマ帝国の磔刑の方法についても正確でした。だから、罪人のためのキリストの受難を「一掃」することは、ここ日本でも行き過ぎなのかもしれません。刑務所の死刑囚監房にあるような電気椅子の模型を吊るすか、首からぶら下げる絞首台を吊るしますか？罪人のためのキリストの受難が、私たちのイエス様にとってのカルバリーでした。

聖書はエリコ征服において、罪が神様にとってどれほど憎むべきものであるかを理解することの重大さを示していると私は思います。罪が神様にとってどれほど憎むべきものであるかの重大さを示すことはイエス様の命を犠牲にしました！」だからわたしたちは、＜ヨシュア記 6 章 17 節＞でみます。

＜ヨシュア記 6 章 17 節＞

17 住民はみな滅ぼせ。だが娼婦ラハブと、その家の中の者たちは助けなさい。ラハブはわれわれの偵察者をかかってくれたからだ。

イエス様は「どくろ」という恐怖と死の場所に連れて行かれました。しかし、十字架上で私たちが罪と死と悪魔からイエス様は解放してくださいました。イエス様の十字架以前は、罪を取り除く唯一の方法は罪人を取り除くことでした。ですから...私たちは皆、喜びと大きな謙遜をもって、使徒パウロがコリントの教会に向けて、神様からの贈り物であられるイエス様について書いたことを、使徒パウロと一緒に叫びます。
使徒パウロは<コリント人への手紙9章15節>で言いました。

<コリント人への手紙II 9章15節>

神のひとり子という、言い表せないほどすばらしい神様の贈り物を感謝します。

神の裁きに戦利品はない

<ヨシュア記6章18節-19節>

18 戦利品には手を出さず、すべて滅ぼし尽くしなさい。もしこれに背けば、イスラエル全体を災いが襲うだろう。

19 ただし、金、銀、および青銅や鉄の器具はみな、主にささげ、主の宝物倉に納めなさい。」

神様が町とその民を滅亡に捧げると宣言されたとき、兵士たちの戦利品として物資を奪うことはできません。貴金属は神様の宝物庫にもってこなければなりません。神様はいつもこのようにされていたわけではありません。全地球の裁き主であられる神様が、これらの決定をされたのです。戦利品を神様の宝物庫に納めることで、神様の裁きのもとで罪人を殺すための戦利品としての物の要求を人々から取り除かれたのです。神様の正しい裁きであって、罪人を殺した兵士の正しさではなく、罪人に死を正当化されたのです。

<ヨシュア記6章20節-21節>

20 祭司の吹き鳴らすラッパの音を聞くと、人々はあらん限りの大声を出して、いっせいにときの声を上げました。と、どうでしょう。突然、城壁がくずれ落ちたのです。それとばかり、四方八方から攻め込み、彼らはたちまちエリコの町を占領しました。

21 町中の者は全部、男も女も、老いも若きも死にました。また、牛や羊、ろばも殺されました。

エリコでの考古学と信仰

私は聖書のすべてを真実として受け入れるイエス様を信じて新しく生まれ変わった若いクリスチャンとして祝福されました。これは私が神学校でトレーニングを受ける前のことでした。そのトレーニングは、神様の言葉への私の信仰を強めました。また、聖書の権威の上ではなく、聖書の権威の下で自分の科学的知性を使うことの自由を知る助けにもなりました。私の罪深い過去の科学でさえ、神様はイエス様の栄光のために用いられる物でした。私は、真の科学者が自然の中で真理を探求するとき、イエス様と福音に向かう聖霊なる神様のささやきを聞くと信じています。ヨシュア記とエリコの戦いは、考古学者の間で最も議論され論争されている聖書の出来事かもしれません。もうひとつは高い確実性でノアと大洪水です。Dr. Bryant Woodのようなクリスチャンの科学者は、聖アウグスティヌスの影響が唯一起因となりクリスチャンになることが可能になります。聖Aurelius アウグスティヌスは西暦396年から430年までHippo（現アルジェリア・アンナバ）の司教を務めました。彼の有名な言葉「すべての真理は神の真理である」は歴史を変えました。彼のキリストに似た生き方、そして確かな聖書神学は、後のクリスチャンたちを科学の探求をするように導きました。真の科学におけるこの自由は、医学研究やDr. Woodのようなキリスト教の考古学者を通じて、宇宙旅行や人類に大きな慈悲をもたらす見解を生み出しました。

YouTubeで公開されているExpedition Bible Series研究にクリスチャンの考古学者であるDr. Bryant Woodの研究があります。たとえエリコの調査がそうでなかったとしても、Dr. Bryant Woodは聖書の記述が真実であると彼の信仰を断言しています。エリコのような埋もれた都市の年代測定に陶器の様式が利用できることを知るとき、彼の「古代陶器」に関する新著も納得します。

今日でも、陶器のスタイルは時代とともに変化します。 Dr. Wood は、エリコで行われた質の高い3つの発掘調査を要約しています。

1907年 ドイツチーム- Seller & Watzinger

1930 John Garstang

1950 Kathleen Kenyon

Dr. Wood は、この3つの発掘調査のうち聖書本文を否定したのは Kathleen Kenyon ただ一人であることを明らかにしています。 Kathleen Kenyon は、彼女が期待したことを発見しなかったという結果にし「劣った科学」をしました。それは Cyprus の陶器でした。「優れた科学」は、あなたが見つけて見るものを評価します。 Dr. Wood はさらに、他の考古学者たちが紀元前 1406 年にシリアで流通していた陶器のコピー、あるいは一般的なバージョンを発見したことから、Kenyon の誤りを明らかにしました。これは、聖書学者たちがヨシュアがエリコに勝利した日付としているものです。私は元科学者として、目に見えないもの、発見しないもの、測定しないもので結論を出すことは「劣った科学」であるという Dr. Wood の意見に同意します。

さらに、現在でもまだ目で見れる Dr. Wood がエリコで示した詳細は、エリコの壁がそれ自体の上に乗っすぐに崩れ落ちています。赤レンガの壁がカップケーキのように崩れ、割れたレンガの破片が外側に広がって斜面を形成していました。この斜面のおかげで、イスラエル兵は楽にエリコ内に入ることができました。この出来事は、旧約聖書の最良の翻訳である *The Septuagint* の<ヨシュア記 6 章 20 節>に示されています。

そして祭司たちはラッパを鳴らし民がラッパを聞くと、すべての民が一斉に大声で叫んだ：城壁はことごとく崩れ落ち、民はみな町に上って行った：

考古学者がエリコで見た斜面の効果は、聖書が「人々は都に上って行った」と述べている理由です。(オーバーヘッドにある Dr. Wood の図に注目してください。) 大きな赤レンガの城壁のふもとには擁壁があったので、イスラエルの民はこのエリコの町に入るために登らなければなりません。つまり、この場合、神様は真理を探究する人々による「真実の科学」が、聖書を裏付け、あるいは聖書を確認することを許されたのです。聖アウグスティヌスが言ったように「すべての真理は神の真理である。」です。

<ヨシュア記 6 章 21 節-23 節>

21 町中の者は全部、男も女も、老いも若きも死にました。また、牛や羊、ろばも殺されました。

22 それからヨシュアは、例の二人の偵察者に命じました。「約束を守りなさい。すぐ行って、ラハブと身内の者を助け出すのだ。」

23 その若者たちは、ラハブを見つけて助け出しました。もちろん、彼女の両親、兄弟、いっしょにいた親族の者たちも。彼らは、イスラエルの宿営の外で生活することになりました。

聖書の旧約聖書には、罪を取り除く唯一の方法は罪人を取り除くことである、という規則を私たちは見ます。この規則はイエス様の十字架以前のことでした。しかし、ヨシュアはここで、遊女ラハブとの約束を守るよう兵士たちに思い出させたことを私たちは見ます。これは実に神様の約束を守ることです。預言者バラムの詩を読みます。預言者バラムは山の上から、カナンに向かって旅する大勢のイスラエル人を見下ろしていました。この出来事は<民数記 28 章 8 節-10 節>にあります。

<民数記 24 章 (3)8 節-9 節>

(3-9) こう預言しました。「ベオルの子バラムが知っていることは、こうだ。私は目のよく見える者。私は神のことばを聞き、全能の神がお見せくださったものを見た。神の前にひれ伏すと、それまで見えなかったものが見えるようになった。ああ、イスラエルはやがて繁栄し、大いに祝福される。緑に覆われた谷間のように、家々は建ち並び、川辺の豊かな果樹園のように、主が植えたかぐわしいアロエのように、川のそばに植えた杉の木のように、水を吸って大きく

なり、ますます領地を広げていく。彼らの王はアガグよりも偉大で、人々は口々にイスラエルのすばらしさを褒める。神は彼らをエジプトから連れ出された。イスラエルは野牛のように強く、敵対する国々をことごとく滅ぼす。敵をさんざん打ち負かし、雨あられと矢を射かける。ライオンのようにうずくまり、眠っているイスラエル。だれがその目を覚まさせられよう。イスラエルを祝福する人は幸せになり、のろう人は不幸になる。」

ラハブは明らかに、唯一の真の神様であられるイスラエルの神様への彼女の信仰を示し、イスラエルを祝福した人物でした。主なる神様はラハブの命を助け、ラハブは主なる神様のために生きました。ラハブはメシア・イエス様の家系図または家系の一部にさえなりました。

あなたとあなたの子供たちのために

自分達に知らされた真理を語り継ぐことを拒んだ世代は、神様の神聖さと義に無知な民を生み出しました。神様に無知は言い訳になりません。

主なる神様は、私たちの心が主なる神様の愛と指示からどのように横道にそれるかを知っておられます。旧約聖書では、イスラエル人がシナイ山で神がモーセに十戒を律法として授けるのを見た後、このことを強く思い起こさせます。〈申命記 4 章 9 節-10 節〉を読みます。

〈申命記 4 章 9 節-11 節〉

9 気をつけなさい。神様がしてくださったことを忘れてはいけません。これから先もずっと、神のなさったみわざを思い出しなさい。子どもにも孫にも、すばらしいみわざについて話してやりなさい。

10 特に、ホレブ山（シナイ山）で主の前に立った日のことは大事です。その時、主は私にこう言われました。『人々を集めなさい。わたしを大切にし、わたしのことばを子どもたちに教えられるように、まずわたしが、彼らに聞かせよう。』

イエス様の十字架後では、クリスチャンはもはや律法の下にはありません。しかし、この警告は今日も続いています。イエス様において、福音は真実であり、イエス様の律法は愛です。クリスチャンの親は皆、自分達の子供という神様のための働きを持っています。

子ども達は主なる神様からの贈り物であり、主なる神様からのご褒美です。〈詩編 127 篇 3 節〉に

〈詩編 127 篇 3 節〉

子どもたちは主からの贈り物であり、報いです。

神様への責任も伴います。私は、女性の日本人の牧師で彼女の教会に来られているイエス様を信じる方が、ご自分の子供たちにイエス様を教えようとされないので失望感を抱いていらっしゃる牧師を知っています。このことは日本だけではありません。私はアメリカの日曜学校の先生からも同じような話を聞きました。教会に来られている親たちのなかには、自分たちの子供たちにイエス様のことを教えるために、牧師や日曜学校の先生がすべての仕事をすることを期待しているのです。

私たちのイエス様を伝える伝道とイエス様を信じる全ての方の祭司職は、私たち自身の家族から始まります。子ども達は神様に関して自分達の両親を見るのが自然な方法です。子供達はしばしば、神様に関して自分達の両親を見るのが自然な方法ということあなたから隠しています。それを信じてはいけません。あなたは、生き方と証しの両方によって、私たち全員が当然受けるべき神様の裁きの怒りから子供たちを救う最高の教師なのです。また、旧約聖書の罪人に対する神様の裁きを隠してはいけません。子供達はやがて、何の義もなく暴力的な映画やテレビを見るようになるでしょう！〈箴言 1 章 7 節〉は言っています。

<箴言1章7節- (9節)>

では、どうしたら賢く なるのでしょうか。 まず主を信じ、主を大切にすることです。 愚かな人は主の教えをさげすみます。 両親の忠告に従いなさい。 そうすれば、あとになって 人々にほめられるようになります。

子供たちもまた、人生の多くを理解する前に、この聖句の重要性を感じることができます。 私は、子供たちやノンクリスチャンで、雷鳴が近くに聞こえても逃げ隠れしたくない人にほとんど 会ったことはありません。

終わりの日の栄光と危険 -十字架

最後の日の危険

現代は、神様が人類のための書を終わらせる歴史の終わりにより近づかせています。 私たちが信仰を守るのにもっと簡単な世界があればと願うのは簡単です。 私たちは、教会の1世紀において、多くのクリスチャンが殉教したり、または死から逃れるために家を追われたりしたことを覚えていて、ことをなおざりにしています。

使徒パウロは<テモテへの手紙Ⅱ 3章1節-3節>で言っています。

<テモテへの手紙Ⅱ 3章1節-3節>

1 テモテよ。これから書くことを、よく心にとめておきなさい。終末の時代には、クリスチャンになることが非常にむずかしくなります。

2 自分だけを愛し、また、お金がすべてだと考える風潮がはびこります。その時人々は、高慢な者、大言壮語する者、神をあざける者、両親に従わない者、感謝することを知らない者、神を恐れないう者になり、

3 また、他人を理解しようとしないう者、人をだます者、節度のない者になります。彼らは乱暴で残忍な行動をし、善良な人をあざ笑います。

最後の日の栄光

使徒パウロとペテロは、イエス様の十字架刑と復活がどのように新時代を切り開いたかを知っていました。ペンテコステの日は、これを聖霊なる神様の時代と定義しました。キリストが私たち全員をこの世から救い出すために再臨されるまで、これらの最後の日々は困難かもしれませぬ。しかし、自分の罪の報いのことを考えると、イエス様の十字架後に生まれたことを神様に感謝します。このイエス様の血潮は私たちのためです。神様は、私たち一人ひとりの内に御霊なる神様を置かれることによって、イエス様を信じる私たちを選び、受け入れてくださっていることを示されておられます。しかし、キリストを受け入れる前の私たちは、エリコの王のために神様と神様に選ばれたイスラエルの民と戦っていた罪人と同然でありました。しかし、神様は私たちをご自身のものと呼び、イエス様の血潮によって私たちの罪を洗い流されました。神様は私たちに忠実な約束を与えてくださいました。神様の印鑑は、古代における王の印鑑のようなものです。そのような印鑑は、日本では今でも文書に使われています。神様の印鑑は、神様が約束を守ること示すものです。神様の印鑑とは、神様御自身の聖霊なる神様です。

安息日の休息-すでにあり、そしてまだない

だから、クリスチャンの兄弟姉妹の皆さん、知っておいてください。私たちの内には聖霊なる神様の祝福があります。そうです。神様の全能の力は私たちの中にあるのに、私たちは時の終わりまで、より困難になっている世界に生きています。私たちは、神様が私たちの目の前にある不動で無敵の城壁を破壊されるのを傍観しているイスラエルの民にもっと似ています。私たちの罪という不動の壁は、イエス様の犠牲的死と復活によって粉々に砕かれました。神様の十字架の御業には、わたしたちがしなければいけない役割はまったくありませんでした。イエス様が全てを成し遂げてくださいました。使徒パウロは、<エペソ人への手紙2章8節-9節>でクリスチャンにこう書いています。

<エペソ人への手紙 2 章 8 節-9 節>

8 あなたがたは、恵みにより、キリストを信じることによって救われたのです。しかも、そのキリストを信じることすらも、あなたがたから自発的に出たことではありません。それもまた、神からの賜物（贈り物）です。

9 救いは、私たちの良い行いに対する報酬ではありません。ですから、だれ一人、それを誇ることはできません。

イエス様は十字架上でこう宣言されました。

<ヨハネの福音書 19 章 30 節>

それをお受けになると、最後に、「すべて成し遂げた」とひとこと叫び、頭を垂れて息を引きとられたのです。

私たち罪人がイエス様を信じて新しく生まれ変わった時、私たちはかつてないほどの平安を経験しました。これこそ、すでに救われたことなのです。聖書が<ローマ人への手紙 5 章 1 節-2 節>で約束しているとおりです。

<ローマ人への手紙 5 章 1 節-2 節>

1 ですから、信仰によって神の目に正しい者とされた私たちは、主イエス・キリストによって、神との間に平和を得ています。

2 信仰のゆえに、キリストは私たちを、いま立っている、この最高の特権ある立場に導いてくださいました。そして私たちは、私たちに対する神の計画がすべて実現するのを、喜びをもって待ち望んでいるのです。

しかし、やがて若いクリスチャンたちは、自分たちの平安を攻撃している霊的な存在を感じるようになります。イスラエルの民が彼らの不動の壁が崩れるのを見た後、彼らの手にした剣が偶然ではないことに突然気づいたイスラエルの民のように。神様は壁を崩す奇跡を起こされましたが、今度はイスラエルの民が戦わなければなりません。しかし、神様がエリコの城壁を崩すと約束されたように、クリスチャンが戦いに負けることはないと言われました。私たちの人生には、計り知れない喜びと平安の期間があります；そしてまた、私たちを失望させる悪魔の嘘に対しての霊的戦いの期間があります。イエス様の血潮は力を失っていないから悪魔の嘘はエリコの赤レンガのように崩れ去るでしょう。「このイエス様の血潮は私たちのためです。」

私たちの果てしない霊的な喜びと平安はまだ先にあります。神様の約束に確信を持ち続けましょう。神様の武具は全能です。ヨシュアが「叫べ！主があなたがたにエリコの町を賜ったからだ！」と命じたように、私たちはイエス様にあって勝利を叫ぶべきです。神様は私たちに永遠の命を与えてくださいました...エリコの町よりもはるかに偉大な贈り物です。私たちは<ローマ人への手紙 5 章 2 節>のように確信を持っています。

<ローマ人への手紙 5 章 2 節>

信仰のゆえに、キリストは私たちを、いま立っている、この最高の特権ある立場に導いてくださいました。そして私たちは、私たちに対する神の計画がすべて実現するのを、喜びをもって待ち望んでいるのです。

私たちがイエス様に会うとき、その栄光は完全なものとなり、終わることはありません！これが「そのまだきてない救い」です！私たちがイエス様に会うとき、それはすべての価値があります。祈りましょう！